令和6年度体力つくり推進計画 <全体計画>

学校の状況

- ・ 瀬戸内海を臨む沿岸部にある小規模校。
- ・ 新校舎になり、運動場の大きさは児童数 が多かった時と変わらず、現在の児童数 に対しては十分広さがある。

児童生徒の運動・生活習慣の実態

アンケート調査結果集計による実態

(R5年度は5年生のみ実施)

- ・玖波っ子生活週間の調査では、睡眠時間は低学年(午後9時)、中学年(午後9時30分)、高学年(午後10時)を目安にすると、低学年ほど就寝時刻を守るのが難しい傾向にある。
- 95%の児童が、運動やスポーツをすることが好きである。

広島県体力・運動能力, 運動習慣等 調査結果との比較から

〇共通

- ・50m走,20mシャトルランの記録は県平均値かつ全校区平均値よりも上回っている。
- ・握力が県平均値かつ全国平均値よりも低い。 ○男子
- ・ほとんどの種目の数値が低い。

○女子

・ほとんどの種目の数値が県平均値かつ全校区平均値よりも上回っている。握力の数値に課題がある。

実態把握

児童生徒の実態や体力・運動能力調査等 から明らかになった課題

- ・柔軟性はあるが、筋力・スピードや調整力が 劣る児童が多い。
- ・休憩時間に外で遊ぶ児童を増やすために、遊び方の紹介・学級レク等、体を動かすことの楽しさを感じさせる方策を練ることが必要である。
- ・家庭でも体を動かす機会を増やすために、テレビやゲームの時間減を減らすとともに、家庭でできる親子体操の紹介や、地域のスポーツ活動への参加などを促す。
- ・基本的生活習慣の確立について、保護者と連携しながら取組を進める必要がある。

大竹市立 玖波小学校

達成目標

○運動やスポーツをすることが「好き」と答えた児童の割合を増やす。

〇「握力」を県平均値以上にする。

取組事項

○全校

- ・大休憩において、チーム学年遊び・たてわり班遊び・長縄跳び練習・短縄跳び練習・その他の遊びに取り組む。
- ・休憩時間にのぼり棒や雲梯を使った大会を行い、体力の向上を目指す。
- ・体育委員会が大休憩を活用して「全校遊び」を実施したり、朝会で「遊びの紹介」をしたりする。
- 体育科授業のサーキット運動や、チャレンジカード等の活用で校内遊具の利用をすすめる。
- ・学校・学年だよりを通じて「親子で体育」を呼びかける。
- ・体力テストで課題となった動きを全職員に伝え、授業の中で計画的に取り組む。
- ・走力・投力等の向上を目指し、体育科授業において正しいフォームを習得させるための取り組みを進める。

(映像機器の利用等)

- ・雲梯・鉄棒をサーキット運動に取り入れ、確実に取り組ませる。ハンドグリップを教室に常備し、活用させる。
- ・かえるの足うち、腕立て等を取り入れ、腕の筋力をつける。体育科学習の内容に関連のある準備運動を工夫し、筋力・ 調整力を身につけさせる。
- ・普段から姿勢に気をつけさせ、筋力・体幹を鍛える。道具を使ったサーキット運動に取り組み、主に握力の向上を図る。

期待される効果

- ・しっかり外遊びをする中で、身体を動かすことの楽しさを感じ、進んで運動をしようとする児童が増加するとともに、 体力・運動能力の向上が期待できる。
- ・体を動かす時間が増えることにより、質の良い睡眠が期待できることで、基本的生活習慣が定着し、健やかな成長に つながる。
- ・筋力が増加することにより、正しい姿勢が保てることにつながる。

体 制



- ・『体力向上推進委員会』を設置。(校務運営規定による)企画運営委員会時に適宜実施し、組織的に体力・運動能力向上について取り組む。
- ・職員全員参加の体力向上校内研修により、児童の実態や課題解決に向けての取組について協議し、教科体育や遊びの時間の改善を図る。

~

令和6年度体力つくり推進計画 <年間指導計画>

大竹市立 玖波小学校

達成目標

○運動やスポーツをすることが「好き」と答えた児童の割合を増やす。

〇「握力」を県平均値以上にする。

